

被災者の回復後押し

どう進める心のケア

専門家3人に聞く

日本では1995年の阪神大震災以来、必要性が広く理解された「災害時の心のケア」。阪神や世界各国での経験を、いかに東日本大震災被災者の心の回復に生かすか。日本の第一人者である兵庫県こころのケアセンター副センター長の加藤寛さんと、復興期の心のケア研究会の代表者として、アメリカ国立子どもトラウマティックストレスセンターのメリッサ・J・ワトソンさんにインタビューし、本報被災地の取り組み取材した。

(学芸部・黒田大介)

加藤 寛さん(兵庫県こころのケアセンター)



「個人にもコミュニティにも回復力はある。それを信じることに意味がある」と語る加藤寛さん

P.M.ブライマーさん(米国の支援者)



「世界がみなさんに心を寄せています」と語るパトリシア・J・ワトソンさん(左)とメリッサ・J・ブライマーさん

メリッサ・J・ブライマー 米ノバ・サウスウエスタン大で臨床心理学を専攻し博士号取得。アメリカ国立子どもトラウマティックストレスセンターのテロ&災害プログラム室長。ハイチ地震やノルウェー乱射事件後の心のケアにも関わる。

パトリシア・J・ワトソン ハーバード大医学部・ボストン子ども病院を経てアメリカ国立PTSDセンター上級教育専門家。大規模テロや災害後の介入、教育資料の作成に携わる。

かとう・ひろし 1958年、宮崎県生まれ。神戸大医学部卒。精神科医。医学博士。2004年から兵庫県こころのケアセンター所属。日本トラウマティック・ストレス学会東日本大震災特別委員会委員。著書に「消防士を救え! 災害救援者のための惨事ストレス対策講座」(09年、東京法令出版)、「心のケア 阪神・淡路大震災から東北へ」(共著、11年、講談社)など。

土台は生活の再建 加藤

内なる力引き出す 時間や忍耐が必要

東日本大震災は、復興の道程が長い。被災者の心の回復に、被災地の生活の再建が土台となる。加藤さんは、その指針として、被災者の生活の再建が土台となる。被災者の生活の再建が土台となる。被災者の生活の再建が土台となる。

「個人にもコミュニティにも回復力はある。それを信じることに意味がある」と語る加藤寛さん

「個人にもコミュニティにも回復力はある。それを信じることに意味がある」と語る加藤寛さん



「世界がみなさんに心を寄せています」と語るパトリシア・J・ワトソンさん(左)とメリッサ・J・ブライマーさん

「世界がみなさんに心を寄せています」と語るパトリシア・J・ワトソンさん(左)とメリッサ・J・ブライマーさん

「世界がみなさんに心を寄せています」と語るパトリシア・J・ワトソンさん(左)とメリッサ・J・ブライマーさん

「世界がみなさんに心を寄せています」と語るパトリシア・J・ワトソンさん(左)とメリッサ・J・ブライマーさん

「世界がみなさんに心を寄せています」と語るパトリシア・J・ワトソンさん(左)とメリッサ・J・ブライマーさん

「世界がみなさんに心を寄せています」と語るパトリシア・J・ワトソンさん(左)とメリッサ・J・ブライマーさん

「世界がみなさんに心を寄せています」と語るパトリシア・J・ワトソンさん(左)とメリッサ・J・ブライマーさん

「世界がみなさんに心を寄せています」と語るパトリシア・J・ワトソンさん(左)とメリッサ・J・ブライマーさん

「世界がみなさんに心を寄せています」と語るパトリシア・J・ワトソンさん(左)とメリッサ・J・ブライマーさん

真価示した保健活動

陸前高田・震災初期から大規模展開

死者1554人、行方不明者298人、市街地壊滅、県立高田病院全壊、市保健師9人中6人死亡。極めて過酷な状況に置かれた陸前高田市で、延べ1万人以上に及ぶ保健師が、外部支援者の応援で展開された保健活動は、世界を驚かす日本の地域保健システムの真価を示した。

避難者訪れ健康調査

傾聴主体、心に寄り添う

「避難者訪れ健康調査」は、傾聴主体、心に寄り添う。被災者の心に寄り添う。被災者の心に寄り添う。被災者の心に寄り添う。

「世界がみなさんに心を寄せています」と語るパトリシア・J・ワトソンさん(左)とメリッサ・J・ブライマーさん

「世界がみなさんに心を寄せています」と語るパトリシア・J・ワトソンさん(左)とメリッサ・J・ブライマーさん

「世界がみなさんに心を寄せています」と語るパトリシア・J・ワトソンさん(左)とメリッサ・J・ブライマーさん

被災地からのメッセージ

陸前高田市小友町 佐藤 春希君 (小友中3年) 震災発生から間もなく、4月の入学式に花束を飾り、伝統の舞を披露した。小友町代表として、元気を伝えられた。これからは、この交流を長く続けたい。将来は、地域の発展のために力を尽くしたい。そのお礼に花束の中、お返しに頑張りたい。

舞で地元の元気表現

題字・山下文男さん

被災地へのメッセージ

仮設住宅の寒さ心配 二市市沢 平久美さん(53) 震災の映像を見た時は、信じられなかった。寒い仮設住宅は、大変だと思ってしまう。買物で一部が義援金になる。商品を買って、勤務する店では老眼鏡を集めた被災地に届ける。被災地に行きたくて、被災地に行きたくて、被災地に行きたくて。被災地に行きたくて、被災地に行きたくて、被災地に行きたくて。

復興願い手作り人形 岩手町沼宮内 自営業 佐藤とむ子さん(73) 沿岸部の復興を願う人形を作った。これまでに約100個作った。手作りの人形、手とりと一緒。大船町や宮古市、釜石市などに届けた。一福をもらいたい。被災地に行きたくて、被災地に行きたくて、被災地に行きたくて。

絆の重要性を再認識 松崎町地区の住民は、昔から結びつきが強い。震災発生後、互いに助け合って、沿岸部の被害を知るとすぐに支援活動を開始した。本年、被災地へ支援物資を送る。被災地へ支援物資を送る。被災地へ支援物資を送る。

「世界がみなさんに心を寄せています」と語るパトリシア・J・ワトソンさん(左)とメリッサ・J・ブライマーさん

「世界がみなさんに心を寄せています」と語るパトリシア・J・ワトソンさん(左)とメリッサ・J・ブライマーさん

「世界がみなさんに心を寄せています」と語るパトリシア・J・ワトソンさん(左)とメリッサ・J・ブライマーさん

「世界がみなさんに心を寄せています」と語るパトリシア・J・ワトソンさん(左)とメリッサ・J・ブライマーさん

「世界がみなさんに心を寄せています」と語るパトリシア・J・ワトソンさん(左)とメリッサ・J・ブライマーさん

「世界がみなさんに心を寄せています」と語るパトリシア・J・ワトソンさん(左)とメリッサ・J・ブライマーさん

「世界がみなさんに心を寄せています」と語るパトリシア・J・ワトソンさん(左)とメリッサ・J・ブライマーさん